

## 令和6年度（2024年度）第1回吹田健やか年輪プラン推進専門分科会

1 開催日時 令和7年（2025年）2月10日（月）  
午後2時00分から午後4時00分まで

2 開催場所 保健センター研修室

### 3 出席者

|        |                                              |
|--------|----------------------------------------------|
| 石倉 康次  | 委員・会長（元広島文化学園大学大学院 人間健康学研究科 特任教授）            |
| 志藤 修史  | 委員・副会長（大谷大学 社会学部 教授）                         |
| 三木 秀治  | 委員（一般社団法人 吹田市歯科医師会 会長）                       |
| 菊澤 薫   | 委員（吹田市介護保険事業者連絡会 居宅介護支援部会 委員）                |
| 辻井 健一  | 臨時委員（一般社団法人 吹田市医師会 理事）                       |
| 岡橋 義弘  | 臨時委員（一般社団法人 吹田市薬剤師会 副会長）                     |
| 奥谷 義信  | 臨時委員（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 副会長）                   |
| 岩本 和宏  | 臨時委員（吹田コスモスの会(認知症家族の会) 会長）                   |
| 篠原 卫子  | 臨時委員（吹田市ボランティア連絡会 副会長）                       |
| 富士野 香織 | 臨時委員（吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護部会 部会長）               |
| 柴田 真也  | 臨時委員（吹田市介護保険事業者連絡会<br>通所介護・通所リハビリテーション部会 委員） |
| 寺阪 健一  | 臨時委員（吹田市介護保険事業者連絡会 介護保険施設部会 部会長）             |
| 菅沼 一平  | 臨時委員（吹田市認知症カフェ交流会 幹事）                        |
| 鈴木 和子  | 公募市民（市民）                                     |

（欠席）

|        |                                                  |
|--------|--------------------------------------------------|
| 岸下 富盛  | 委員（一般社団法人 吹田市高齢クラブ連合会 理事長）                       |
| 岩脇 ちゑの | 臨時委員（吹田市民生・児童委員協議会 副会長）                          |
| 藤川 淑子  | 臨時委員（吹田市介護保険事業者連絡会<br>訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問入浴部会委員） |
| 清水 泰年  | 臨時委員（公益社団法人 吹田市シルバー人材センター）                       |

【事務局】

梅森福祉部長、田畑福祉部次長、竹本高齢福祉室長、村井高齢福祉室参事、  
樋上高齢福祉室参事、平井高齢福祉室参事、村山高齡福祉室参事、  
中西高齢福祉室主幹、下村高齢福祉室主幹、原口高齢福祉室主査、  
糸川高齢福祉室主任、廣瀬高齢福祉室係員

4 案件

- (1) 吹田健やか年輪プラン策定にかかるスケジュール
- (2) 第9期吹田健やか年輪プランと年次報告について
- (3) グループワーク
- (4) その他

5 配付資料 別添のとおり

## 6 議事内容

事務局：【開会】

（村井参事）

【部長挨拶】

【委員紹介】

【資料確認】

【傍聴者の報告】

（傍聴者1名、全員入室）

石倉会長： それでは、次第に沿って議事を進めていきたいと思います。  
まず案件（１）について、事務局から説明をお願いします。

（１）吹田健やか年輪プラン策定にかかるスケジュール  
事務局から資料に基づき説明

石倉会長： 案件（１）について質問、御意見ございませんでしょうか。  
ないようですので、次に案件（２）について、事務局から説明をお願いいたします。

（２）第9期吹田健やか年輪プランと年次報告について  
事務局から資料に基づき説明

石倉会長： 案件（２）について質問、御意見ございませんでしょうか。  
ないようですので、次に案件（３）について、事務局から説明をお願いいたします。

### (3) グループワーク

事務局から別紙に基づき説明

その後、2グループ（Aグループ、Bグループ）に分かれてグループワークを実施  
グループワーク終了後、各班から結果の報告

事務局： それでは、発表に移りたいと思います。

（原口主査） Aグループから発表していただきます。

Aグループ： Aグループは、高齢者の外出促進について話し合いました。

（菅沼委員） 介護予防事業や認知症関係などのイベントは、数多く開催されていますが、その情報が高齢者に届いていないことが課題であるため、まずは、情報発信をどのようにしていくべきか議論したところ、「インターネットでの広報だけでなく、薬局や公民館などに紙媒体を設置するのも良い。」という結論に至りました。

インターネットでの広報については、インターネットに不慣れな高齢者もいる一方で、スマホを使う高齢者も増えていきますので、最近よく開催されているスマホ講座等を活用して、高齢者のリテラシーを高めるとともに、発信者にとってわかりやすいWEBページ作りが必要だと思います。情報発信については以上です。

次に、具体的に「何をしたら高齢者に外出したいと思ってもらえるのか。」について議論したところ、「ボランティアや仕事など、自分の役割を持ってもらうことが外出につながるのではないか。」という意見が出ました。ただし、ただ働きではなく、ポイントがつくなどのインセンティブがあった方が良いでしょう。ある街では、地域活動に参加すると医療費が少し安くなる制度もあるそうです。そこまでは言いませんが、スターバックスのコーヒー券がもらえるなど、企業と協力しながらインセンティブをつけていただけたらなと思います。

その延長で、企業の社食を地域の人を使いやすくする、大学の学食を地域に開放するなど、そういう場所を増やしていただけると、行ってみようかなという気持ちになるのではないかと思います。

また、スーパーのイートインなどの活用という意見もありました。最近、イオンなどの一角で介護予防体操をしているようで、これらの取組をスーパーで行うと、目につきやすいですし、私も行ってみようかなという気持ちになるのではないかと思います。

最後に、身体が弱ってしまった方に関しては、外に出ること自体が難し

くなってきました。なかなか難しいとは思いますが、コミュニティバスなどの交通機関の整備についても考えていかないといけないという話が出ました。

事務局： それでは、次にBグループをお願いします。

（原口主査）

Bグループ： Bグループは、介護人材確保について話し合いました。介護医療関係者の取り組みとしては、有資格者の掘り起こしや、ボランティアの活用などの意見がでました。それらは、現在も実施している取組です。他には、行政との連携強化、大学生等の有償でのボランティアの活用なども試みてはどうかという意見がありました。

また、「施設職員の業務を見直して、シフト交換など、有償又は無償のボランティアにお願いするのはどうか。」という意見も出ました。

さらに、核家族化が進んでいるため、おじいちゃんおばあちゃんと同居している方も少なくなっています。大人になるまで車椅子を押したことがないという話も聞いたことがあります。小学校、中学校の義務教育の中で、福祉体験など積極的に事業者が出向いて、興味を持っていただけるような取組を進めていけたらと思います。

あとは、今、「人との交流を求めている人も多いのではないか。」という意見もありましたので、SNSなどを使って魅力発信や、世代交流ですね。

70代の方でも、まだまだ働ける方もたくさんおられる、私もびっくりしたのですが、労働人口自体は減っていないようですので、働き口をもっともっと広げる努力が必要じゃないかという意見も出ていました。

また、なかなか難しい話だと思いますが、やはり待遇の改善、給与アップという意見も出ました。ニュースなどでは、一般企業だと初任給30万と出ていますが、そういう衝撃的な金額を聞くと、福祉は何でこんなに安いのかというマイナスなイメージが付きまとうこともあります。これはスケールがかなり大きい話ですが、国が予算をつけて、事業所側に給付する仕組みを作る。また、吹田で働くメリットの創出、PR、例えば住宅補助、家賃補助や町で使える金券など、福祉施設で働く人に対してプラスアルファを行政や社会福祉協議会と連携を重ねて、取り入れていく必要があるという意見が出ています。

あとは、情報発信についてです。Aグループでもお話がありましたけど、どこでどう発信するのか、やはりまだまだ紙が良い方も多いので、SNSやインターネットも大事ですが、効果的な情報発信を取り入れて、今回出た意見を一つでも叶えられるように私たち一人一人が活動をもっと深め

ていければと思います。

石 倉 会 長 : 各グループの意見を発表いただきましたが、ご意見、ご質問はございますか。

奥 谷 委 員 : 助け愛隊などの良い取組がなかなか地域に浸透していないということが問題かなと思います。

あと学生の力をどう上手に使うか。社会福祉協議会もそういう役割を果たすべきだろうなと思いますし、行政と社会福祉協議会との連携を今まで以上により深めることが重要かなと思います。

石 倉 会 長 : 他に何かご意見ございますか。

鈴 木 委 員 : 外出支援のところですが、今、バスの料金が一回250円なんです。往復で500円かかります。距離の長さ関係なく500円必要になるわけです。

伊丹市は、お年寄りはバスが無料です。だからバスはものすごくお年寄りが多いです。

吹田市は、交通費の補助などの考えはあるのでしょうか。

年金の金額は変わらないのに、物価は上がっている状況で、さらに自分でお金を負担して外出しなさい、というのは無理があると思います。

事 務 局 : 高齢福祉室では、バスの運営につきましては、正直検討ができない分野（原口主査）ではあります。

今回のようなご意見があるということは、私どもから関係部署の方にはお伝えしているという状況です。

鈴 木 委 員 : 無料とは言わないので、せめて半額、または何かの形で補助していただけたらなと思います。福祉は関係ありませんというのは冷たいと思います。

机上の空論ではなく、実際どうなのかを見極めていただきたいと思います。

石 倉 会 長 : 他にも何かご意見ございますか。

ないようでしたら、案件（４）について、事務局からお願いします。

#### (4) その他

事務局から次回の会議日程について説明

最後に本日の会議について、会長、副会長から総括

志藤副会長： 今日のお話の中で、すごく大事な話が出たと思っています。

第9期計画策定に向けて、何度か行ったグループワークに関して、「言っぱなし、聞きっぱなしにしないで欲しい。」という非常に率直なご意見をいただきました。

これはすごく大事なことだと思いますし、言っぱなし、聞きっぱなしにしない具体的な方法などを考えていく必要があります。

先ほどの交通の問題も、おそらく公共交通に関する計画を立てておられるのではないかと思いますので、福祉部局から、災害などのいろいろな計画と絡めて、日頃から外に出ておくことの大切さを、福祉部から提言いただけたらと思っています。

今日出たお話は、大きく分類すると、条件整備、情報発信、住民自身のモチベーションの3つに分けられると思います。

1つ目の条件整備についてです。これから吹田市は、全国の10年、15年遅れで、65歳以上人口のピークを向かえます。2050年、21世紀の半分終わった時に、一番厳しい状況になります。私たちの次の世代がここで生きて、もしかしたら私たちの介護をしている状況になっているかもしれません。その時に、介護する人たちをどう支えていくのかが、一つの焦点になると思います。その条件整備に関して言うならば、第9期計画においては、例えば、資格に関するサポートや、ハラスメント防止などの働きやすい環境を整えるということが規定されていますが、吹田市は、大阪のど真ん中で非常に交通便利が良く、いろいろなところにすぐに働きに行ける状況の地ですので、吹田で働いてもらうためには、吹田で働くことに対するインセンティブの仕組みを考えた方が良いと思います。昔、吹田市は保育の制度で、補助制度とか出されていたと思いますが、例えば家賃補助、奨学金の返済をサポートする、資格取得に関しては大胆に無料にしていくなど、吹田で働くことに結びつけたインセンティブっていうのはもうここで働くといいよねって思える条件を整えていくことがすごく良いかなと思います。これが1つ目の条件整理です。

2つ目は両方のグループでも意見が出ていましたが、情報発信についてです。何をどういうふうにどういう方法で出すか。SNS、ホームページを作って終わりではなく、情報発信に関して、内容と方法を具体的に詰めていかないといけない。多世代の人たちが受けとめられるような、方法

をいろんな人たちが考えないといけないと私は思っていて、情報の発信はすごく大事です。

3つ目は、住民自身のモチベーションです。外に行こうと思う気持ち、人と人とが関わることを大事に思う気持ち、そこから仕事に結びつけようという気持ち。その気持ちを育むためには例えばボランティアや福祉体験など、繋がって楽しいと思えるようなイベントがあると良い、というお話が出ていたと思いますが、やはり私は、住民の方の気持ちがすごく動くようなことをやらないと、変わらないと思います。外出促進のグループではいろいろなアイデアが出ていたので、それを具体的に生かしていただければいいかなと。

この3つのことを具体的に進めるために何が大事かという協力連携です。行政、企業、団体、学校、法人。いろいろなところが連携をしながら協力していくという体制をどう整えていくか。それが前提になって、先ほどの条件整備、情報発信、住民自身のモチベーションが高まるということに行き着きます。

第9期計画の内容や新型コロナウイルス感染症の影響で大変だったことの経験も含めて、言っぱなし聞きっぱなしにしないために、どう進めていくのか考えていくべきだと思います。

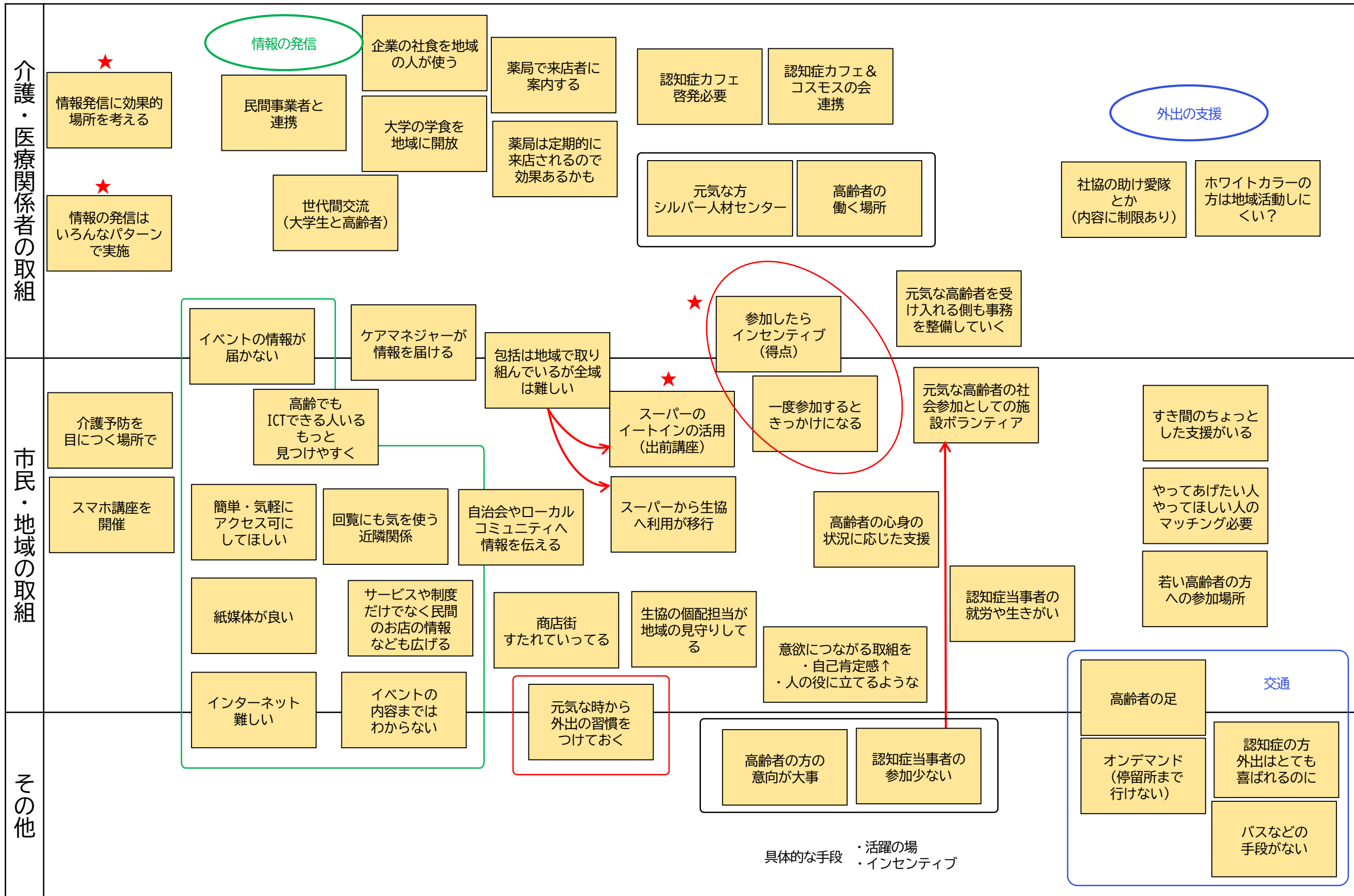
石倉会長： この計画は、介護保険事業計画と高齢者保健福祉計画の2つを含んでいます。介護保険事業計画に関しては、やはり人材の問題が非常に大きな問題だと思います。高齢者保健福祉計画に関しては、これから高齢者がどんどん増えていく、その増えていく高齢者の方々に、できるだけ元気に過ごしていただき、健康寿命を長くしていただくにはどうしたら良いかということを考えないといけない。

これには介護保険の範囲を超える取組をしないといけないわけで、今日のご意見でもあった移動の状況をどう整えていくのかについても、非常に大きな問題だと思います。2030年が吹田市の総人口がピーク、高齢者人口は2050年がピークですから、そのあたりを目指してどう整えていくのか、これからこの専門分科会で考えていかないといけないのではないのでしょうか。それから福祉部だけでなく、他の部局にもこういう視点を持ってもらい考えていただきたいと思います。

ということで、本日の専門分科会、これで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



テーマ「高齢者の外出促進について」



テーマ「介護人材確保について」

